

中途視覚障害者に対し病院で実施する QOL 評価表の試作 (1)

田中恵津子¹⁾, 西脇友紀¹⁾, 小田浩一²⁾, 山本晃¹⁾, 樋田哲夫¹⁾

杏林アイセンター¹⁾, 東京女子大学²⁾

中途視覚障害者にたいするロービジョンケアのサービスをより包括的・組織的・客観的に行うためには、良いQOL評価を継続して行うことが必要である。ここでは、これまでに開発されている代表的なQOL評価表を比較検討して、最も良いと思われる評価表を選択し、ベースとなる雛形を作ったので、それを報告する。

目的

中途視覚障害は、それを負った人間のQOL (Quality of Life: 生活の質) の低下をもたらす。ロービジョンケアでは、このQOLを改善することが究極の目的であり、ロービジョンエイドの処方、そのための1つの手段として捉えることができる。我々はこの他、歩行訓練士や視覚障害リハビリテーション・ティーチャという外部専門スタッフによる院内訓練や、点字図書館に代表される外部施設・障害手帳制度に関する情報提供などの複数のサービスを提供している。ここでは、初診時のインタビューあるいは初期評価と、サービスを提供した後に、サービスが実際に患者のQOLの向上に役立ったかを評価するためのQOL評価表を試作したので、報告する。(1)では、既存の評価表を比較検討し、米国で開発されて比較的良く使われているNIH-VFQをベースに雛形を作る試みを、(2)では、杏林大学に実際に来院したロービジョンの患者のニーズ調査をもとに、それに対して修正を行った後の改訂版について述べる。

これまでに開発された視覚障害に関連したQOL評価表には、例えばActivities of Daily Vision Scale¹⁾、vision-specified Sickness Impact Profile(SIP)²⁾、National Eye Institute Visual Function Questionnaire (NIH-VFQ)^{3),4)}、網膜色

素変性症のQOL評価⁵⁾などがあげられる。本報告では、その中で特に比較的良く利用されているNIH-VFQを中心に比較検討した。

方法

既存の評価表4種類の特徴をまとめ、比較する。ロービジョンケアへ応用するのに最も適した評価表を選び、具体的な項目を選出する。

結果

既存評価表の特徴をまとめる。

Activities of Daily Vision Scale¹⁾

1992年に白内障患者の視機能評価のために作られた。遠方視、近方視、まぶしさ、夜間の運転、昼間の運転に関連した20の動作を5段階で評価する。

vision-specified Sickness Impact Profile²⁾

睡眠、食事、仕事、移動、家事、余暇活動、身体運動、社会参加、警告行動、情動行動、コミュニケーションの側面からQOLを評価し、評価が低い項目の原因が視機能が確認する。白内障患者の実態調査のために開発された。

National Eye Institute Visual Function Questionnaire (NEI-VFQ)^{3),4)}

主な疾患ごとにQOLの特徴を把握することを目的として作られた。1995年にオ

リジナルが，1998年に改訂版が出た．51項目から構成され，それぞれ5段階評価を行う．246名のロービジョン患者からのニーズ調査を基礎に開発された．

網膜色素変性症のQOL評価

網膜色素変性症患者を対象に作られた評価表である．事前の調査で，満足度に対して影響の大きい評価項目を評価基準に摘要した．

これらの評価表の中でNEI-VFQは，他の開発過程と異なり，特定の疾患だけでなくロービジョン患者全般を評価対象ととらえている．新しい評価表の開発には，このNEI-VFQを基本として改変を加えることとした．

考察

NEI-VFQの評価項目の中には，「ホームパーディー」など生活様式の違いからそのまま日本で流用できないものも含まれていた．また，本人に不足している情報内容が即判断できるという新しい観点を付加するために，次のステップとして各項目とそれぞれに対応するリハビリ情報の照合をし項目調整をする必要がある．

謝辞

本研究は厚生省科学研究費感覚障害事業補助金と日産科学振興財団からの補助を受けた．

参考文献

- 1) Mangione CM, Phillips RS, et.al: Development of the 'Activities of Daily Vision Scale', A Measure of Visual Functional Status, Medical Care, 30, 12, 1111-1126, 1992.
- 2) Scott IU, Oliver D, et.al.: Functional Status and Quality of Life Measurement Among Ophthalmic Patients. Arch Ophthalmol, 112, Mar, 329-335, 1994.
- 3) Mangione CM, Berry S, et.al.: Identifying the Content Area for the 51-Item National eye Institute Visual Function Questionnaire-Results from Focus Group with Visually Impaired Persons. Arch Ophthalmol, 116, Feb, 227-233, 1998.
- 4) Mangione CM, Lee PP, et.al.: Psychometric Properties of the National Eye Institute Visual Function Questionnaire (NEI-VFQ). Arch Ophthalmol, 116, Nov 1496-1504, 1998.
- 5) 早川むつ子, 白石安男, 稲葉裕, 市川高文, 金井淳, 石田みさ子, 箕輪真澄: 網膜色素変性症のQOL-Quality of life retinitis pigmentosa-, 眼科, 38, 373-380, 1996.

表1 NEI-VFQの項目と下位尺度

健康全般(2項目) 5段階の健康評価 視覚機能全般(2項目) 6段階の全般的視覚機能評価 目の痛み(2項目) 近見視(7項目) 困難度の尺度 新聞の読む 小さい字を読む 顔のすぐ近くで見えるか ゲームやトランプは見えるか etc 遠見視(7項目) 困難度の尺度 道標が読めるか 昼間に階段を降りる 夜間に階段を降りる 部屋の反対側にいる人の顔が分かる テレビが見える etc 視覚に関係の深い社会活動(4項目) 困難度の尺度 他人の反応が見える	他家の訪問 etc 視覚に関係の深い心的健康(8項目) 時間の長さ 視力についての心配 目について考える時間 目のことでフラストレーションある etc 程度の尺度 目のことで他人/自分に迷惑を掛けると心配するか 他人のことでいらいらするようになったか etc 視覚機能への期待(3項目) 程度の尺度 目は悪くなると思うか 目は良くなると思うか 良い/悪い 来年はどうなるかの予測 視覚に関係の深い役割行動(5項目) 時間の長さ 達成度が低くなった	より援助をもらっている 他の人により仕事をまかせる 自分にできることが減った 我慢できることが減った 視覚障害に起因する他者への依存(5項目) 程度の尺度 ほとんど自宅にこもっている 他人はみんな自分の仕事を知っている 自分一人では自宅を離れない 他者の言葉に依存しすぎる 他人からの援助がすごく必要 車の運転(4項目) 昼間の運転の困難 知っている場所 知らない場所 周辺視(1項目) 横方向にあるものに気づきにくい 色覚(1項目) 服の色合わせ/選びが難しい
--	---	---